

認定NPO法人アンケート

法人名: 特定非営利活動法人 夢舞台

担当者名: 齋藤慎一郎

Q1 現在活動している主な事業について教えてください。

- ・自立援助ホーム(児童自立生活援助事業)
- ・義務教育終了後の15歳～概ね20歳までの、様々な理由から家庭で暮らすことが困難な青少年たちが共に生活し、就労、就学等の社会経験を通して、社会人として暮らしていく準備をするための寮です。

Q2 認定を取得しようと思った理由を教えてください。

- ・社会的信用と信頼による、社会への理解を目指して。
- ・寄付控除による寄付金での支援への期待を想定して。

Q3 認定取得までに苦労された点をお聞かせください。

- ・賛助会員(3,000円以上)、寄付者(3,000円以上)の年間100名以上の賛同者の獲得。
- ・提出書類、報告書類の膨大さ。
- ・特に事務専属の職員がいないため、利用者への処遇、運営、事務を3.5人の人員配置での準備が、とにかく大変であった。常勤3人で行うのは無謀。

Q4 認定を取得されたことで法人の運営や活動に何か変化はありましたか。

- ・大きな変化は感じられないが、書類の整理、効率化など事務管理能力がスタッフ全体で向上したように感じられる。
- ・主に会計の動きについて、全職員が把握できるようになった。

Q5 多くの方からご支援をいただくためにどんな工夫をされていますか。

- ・まずは、スタッフ間でのコミュニケーション。非常勤さん、ボランティアさんへの誠実な対応を心掛けています。
- ・非常勤さん、ボランティアさん、および本事業に関わって下さった方々が紹介してくださった支援者の方々は、長く変わらないご支援を続けてくださっている。

Q6 これから認定等の取得を目指す NPO 法人へのアドバイスをお願いします。

- ・とにかく会計処理の事務量が多いため、事業の会計を把握している人が複数人いることが望ましいと思います。
- ・既に 100 名以上の賛同を得られている法人は、それだけでも魅力的で必要とされている事業であると思います。認定格の有無については、法人内で要検討です。
- ・現状の認定 NPO の制度では、Q2 等の期待する効果に直結したものが感じられにくいです。Q2 での効果を期待するのであれば、SNS やメディアへの発信、一般の方が見て分かりやすい手段が効果的かと思われます。(この手の手段は、特定の個人が行うものになりがちだなと思います。)
- ・企業の平均寿命は 30 年以内と言われている中、信頼と実績を積み、社会から本当に必要な事業を行う NPO であることを発信し続けるため、我々は認定格にチャレンジしました。
- ・5 年に一度ではありますが、1 年毎に提出書類の確認や整理が大切です。特に、初回の更新に際して、過去 5 年分を一気に行うことはかなりの労力と負担です。初年度から適宜、県庁への相談確認、認定格のある法人さんへのアドバイスを受けた上での発進が望ましいと思います。
- ・会計算式は、各事業所によって異なることがあるようなので、会計処理を行う方たちの共有と過去 5 年分の会計根拠の説明が出来るようにする必要があります。(A 法人、B 法人の会計算式は必ずしも同じではないため、自分たちの法人の会計を理解する必要があります。)
- ・

(記入日:令和5年 3月 3日)